

資料 2

西東京市公民館運営審議会
令和5年度第2回定例会

令和4年度 公民館主催事業報告書

公運審提出日 令和5年6月21日

	実施館	事業名	期間・回数	参加者数	実施内容	主な講師等
1	柳沢	子育て中の外国人女性のための日本語講座	令和4年5月13日から 令和5年3月10日	延べ242人	作文、会話、文法等、日本語を学習するとともに、日本社会で暮らす上で必要な情報・知識を得たり、日本社会への理解を深めたりする機会となった。	平成23年度および24年度実施の “「外国人のための日本語講座」 スタッフ養成講座” 修了者 市内日本語教室ボランティア経験者
2	柳沢	地域づくり未来大学 ～地域課題を捉え、まちの豊かさを考える第一歩～	令和4年9月17日から 令和5年3月11日 土曜日 10時から12時15分 全12回	延べ124人	本講座の構成を①社会問題について学ぶ、②地域の課題に落とし込む、③私たちにできることを考える、とし、前半をインプット、後半をアウトプットとした。空き家見学や居場所主宰者を招いて話を聴くなど受講者の関心ごとに柔軟に対応した。最終的に、地域の中で居場所イベントを開催したいと準備を進めている。	岩松真紀（明治大学非常勤講師）、 中村晋也（ヤギサワベース代表）、 田中悠美子（立教大学助教）、石田裕子（放課後キッチン・ごろごろ代表）、 池田和嘉子（公財日本女性学習財団）、市川望美（非営利型株式会社Polarisファウンダー）、 高齢者支援課職員、若尾健太郎（ユニココ代表）、 菊池ゆかり（リアル井戸端主宰）、 佐藤将之（早稲田大学教授）
3	柳沢	【共催事業】 西東京市民映画祭2022 第19回自主制作映画コンペティション最終予選会 ※西東京市民映画祭2022実行委員会との共催	9月23日 祝日・金曜日 10時から18時	14人	11月に開催する本選で上映する作品を選ぶ最終予選会を公開で開催。一次予選を通過した17作品を上映した後、本選の審査委員による講評を行った。	篠原哲雄（審査委員長／映画監督） 飯島一次（審査委員／作家） 井坂能行（審査委員／映画・映像監督）

4	柳沢	BOSA I カフェ	①令和4年10月15日 (土曜日) 14時から16時 ②11月12日(土曜日) 13時から16時	延べ50人	平成30年度から令和3年度までに実施した地域防災講座参加者有志から構成される企画運営委員会が、企画・準備・運営。災害用トイレの給水実験やカードゲーム等、2～3つのコーナーを設け、企画運営委員と来場者が防災について語り合い、交流した。	
5	柳沢	ヤギフェスvol.11 柳沢みんなの文化祭 みつけて あなたの〇〇	【ロビー展示】 令和4年11月7日 (月曜日)から11月20日(日曜日) 【展示・ワークショップ】 11月12日(土曜日) 11月13日(日曜日) 【ステージ発表】 11月19日(土曜日) 11月20日(日曜日)	参加団体 29団体 個人参加 2人 来場者 延べ635人 参加者 延べ904人	公民館や地域で活動する団体・個人が実行委員会を組織し、協力して企画、準備し、開催。別日に、ロビー展示、作品等の展示・ワークショップ、ステージ発表を行った。	
6	柳沢	地域防災講座 (仮)被災後の生活重建について考える ～だれもが日常の生活を取り戻すために～	令和5年1月7日 1月21日 2月18日 土曜日 14時から16時30分 全3回	延べ38人	被災後、日常の生活を取り戻していくために活用できる生活重建支援の法律や制度について学んだ。その上で、平時に何ができるか、防災の輪を地域に広げるという視点から考えた。	小野修平(ジョージ防災研究所代表、防災アドバイザー)
7	柳沢	現代社会を考える講座 1950年代から「いま」を考える ～歴史に学ぶ現代社会のしくみ2～	令和5年1月14日から 3月4日 土曜日 10時から12時10分 全5回	延べ301人	当時の人々が残した史料を手がかりに、占領期に続く1950年代について学んだ。現在の日本社会について考える機会となった。	戸邊秀明(東京経済大学共通教育センター教授)

8	柳沢	ムービールーム柳沢特別企画 ドキュメンタリー ～カレーライスを一から作る～	令和5年1月18日 ①14時から17時 ②19時から20時30分 水曜日	延べ60人	ムービールーム柳沢特別企画として、2016年制作のドキュメンタリー「カレーライスを一から作る」を上映し、命や環境等についての気づきを促した。監督の解説や話を通して映画の趣旨をより深く理解できるようにした。	前田亜紀（作品監督）
9	柳沢	ライフデザイン講座 仕事なんか生きがいにするな ～生きる意味を再び考える～	令和5年2月16日 3月2日 3月16日 木曜日 19時30分から21時15分 全3回	延べ114人	主に20代から50代の勤労世代を対象に、人生と仕事の関係や心と身体のメカニズム、生きがいや生き方を考えるための哲学を学んだ。各回とも後半は講師との対話をメインとし、講師が参加者からの質問に話を膨らませながら答えた。講師は著書多数の精神科医。オンライン登壇。会場にはファシリテーターを招いた。	泉谷閑示（精神科医、音楽家、評論家）
10	ひばりが丘	第14回 ひばりが丘フェスティバル	3月5日 日曜日 10時から16時	延べ384人	公民館を利用する市民団体に発表の場を提供することで、日頃の活動に対する意欲を高め、フェスティバルを創りあげるプロセスを通して活動の幅を広げていく機会となった。また地域住民が公民館利用者と一緒に発表や展示を楽しみ交流する場、学び合う場を支援することにより、世代を超えたつながりのできる「地域に根ざした公民館」を実感できた。	